令和４年度久留米市障害者地域生活支援協議会

第４回全体会　議事録

次　　第	１　開会 ２　協議事項 （１）令和４年度生活実態調査　調査報告書（原案）について （２）考察（案） ３　その他
開催日時	令和５年３月３０日（木）１８：３０～
開催場所	ＺｏｏｍによるＷｅｂ会議
出　席　者 （敬称略）	・久留米市身体障害者福祉協会　・久留米市手をつなぐ育成会 ・久留米市精神障害者地域家族会　・久留米市作業所連絡会 ・久留米市社会福祉協議会　・久留米市障害者支援施設協議会 ・久留米市障害者基幹相談支援センター　・久留米児童相談所 ・久留米商工会議所　・弁護士会　筑後支部 ・久留米大学　・久留米市校区社会福祉連合会
欠　席　者 （敬称略）	・久留米医師会　・久留米市介護児福祉サービス事業者協議会 ・久留米市立久留米特別支援学校　・久留米市保育協会 ・久留米市私立幼稚園協会　・久留米公共職業安定所 ・久留米市民生委員児童委員協議会　・久留米市校区まちづくり連絡協議会
内　　容	１．開会 20名中、12名参加のため会議成立 ＜会長＞ 傍聴希望者の確認 ＜事務局＞ 傍聴希望者はなし ２．協議事項 （１）令和４年度生活実態調査　調査報告書（原案）について ＜事務局＞ ・令和４年度生活実態調査　調査報告書（原案）について資料別紙１を用いての説明を行う。 意見・質問 <委員>「災害時における不安」の項目について。 避難できないという方がかなりの数いるようだ。障害をお持ちの方は意外とペットを飼っている人も多い。ペットがいるから避難できないという人も多いと思う。それに関してはどうか？

	<事務局>ペットを飼っている方は障害の有無に関わらず、ファミリーサイクルパークにペットと一緒に避難できる避難場所を開設している。 　そちらをご案内することになるかと思う。 <委員>「親亡き後の不安」について。おそらくは知的障害者が一番不安に思うという所だが、回答しているのは保護者なのか。 　代筆者なのか、本人なのか、どのくらいの割合か知りたい。 <事務局>ほぼほぼ保護者の方の回答だった。 <委員>我が子自身はあんまり思ってないだろうと思った。やっぱり保護者の方の不安なのだなと感じた。 <委員>就労の事について。福祉系サービス事業所が一番就労の割合が高いとの事だが、これはA型就労かB型就労なのか。どちらが多かったのか <事務局>現在の数値が速報値の為、詳細まで分析が終了していない。 　内訳はまだ出ていない。A 型か B 型かは選択式にはなっている。 　今後分かる予定。 <委員>A型・B型が拮抗しているのかと思う。 <事務局>肌感覚としてはおっしゃる通りほぼ同数ではないかと推測する。 <委員>よく分析されているな、と思う。 <委員>地域の関係で。地域としては障害者に対しての情報が多くないので、どのあたりにどのように手を差し伸べればよいか難しい所がある。 我々としては、災害が発生した時の避難については地域で手を差し伸べねばならないと思っている。 　17 頁にあるように要支援者名簿を元に避難訓練などを行うが、障害の方がなかなか登録されていない。 　名簿を基に図上訓練しているが、登録されなければ対象にならない。 　福祉関係者・基幹センターは要支援者名簿への登録の働きかけを強く伝えてほしい。 <委員>介助者とか相談先は家族が多いと書いていた。 　家族以外に支援が入っていないのではないかとか、相談先の周知がされていない可能性があるとか、サポーターが家族しかいないのでは…みたいな感じで、家族だけ、というのはあまりよくないのではないか？という書き方だった。 　考えてみれば家族は当事者にとって一番頼れる、いつも近くにいる存在という事でそりゃそうだろう、という感じにも取れる。 　もしかしたら家族のサポートや、家族が楽しくなれたりするよう家族支援を入れることで、家族が担える部分や、ちょっとだけ力抜いてもいいんだよとかが改めて見える…そういう風にも取れると思う。 　一番の支え手である家族に対して何が必要か？エンパワメントするという風にもとれると思う。家族会の方もいるので、意見を聴ければと思う。 <会長>逆に家族が相談する場所があるのかなというのは気になります。 <委員>私は親の会にいるから、親同士の相談は割とやっている方だと思う。会員にな

	ってもできるだけ孤立しないようにとか、困った時の支え合いを互助的にやっていくような取組をしている。 　防災・災害時の支援にしても、当事者本人が防災講座を市と協力して行うことも増え、知的障害者対応の防災訓練をこちらでもやっている。 　要支援者名簿に登録したからとて、確実に助けがくるわけではない、登録することで周りと繋がっていきましょう、と地域福祉課からは言われた。 　家族によってはどうやって助けを求める声かけをすればよいかわからない保護者、家族も多いと思う。普段から付き合いがあるところはいいが、そうでない所はなかなかいざという時の発信はしにくいだろうなあと思う。 　そんな時、地域の方から少し声かけしてもらったりとかあるとありがたい。 　色んな校区によって違うとは聞いたが、上記の様な心情が地域の方とかみ合っていけばよいと感じる。 <委員>はぜの実は家族にも「なにかありませんか」と定期的に質問したり、ご自宅に赴き話を聴いたりするが、お母様方から、なにか発することはよほどの時しかないので、定期的に声かけするようにしている。 <委員＞何かの会に所属していると、どこかと繋がる方法はある。 　一方でどこにも所属してない人はたくさんいる。小さいころからの親同士のつながりも少なくなり、相談先はサービス、という事が増えている。 　そういったところで、孤立していく事を心配している。 <委員>家族が一番の理解者という反面で、家族が一番理解していないという所もある。 　親同士の話を聞くと、「おたくは～だからいいね」というやりとりがあったりですね。できるだけ健常者に近いほうがいいわけだよね。「早く自分でできるようになるといいね」という形です。 　そういったものが、障害者本人自身の思いとはかけ離れている場合も多い。 　例えば、中途の精神障害の方とか。なかなか家族が理解してくれないという話をよく聞きますもんね。親は障害をもつ以前の息子や娘の事を思い、その頃のようになるいいなと考える。 　今の本人の状態を理解してくれないという場面が多いわけですよね。 　元を正せば、そういう人と付き合ってきてなかったという事です、お父さんもお母さんも。自分自身も障害当事者として育った経験がないと思うんですね。そんな中である日突然我が子が障害をもつことになると、戸惑う人が出てきているのではないかと思う。 　福祉サービスが充実すれば、さらに交わる機会が減るのではないかと思う。 　放課後デイサービスなどが増えて、小さいころから交わる機会が減ったり等ですね。 　大きい子から小さい子まで遊ばなくなった。例えば、能力の差があるもの物同士が、どうやって遊ぶか。小さい子と遊ぶ場合は手加減するわけです。遊ぶにしても、喧嘩するにしても。そういう経験そのものが減ってきているのだと思う。

	昨今は、障害に関わらず、細かくカテゴリー分けされてきたというところに大きな問題があると思う。 災害の避難場所が障害者にあっていないという意見もありますが、熊本の災害で、民生委員とか、熊本学園大とか、色んな人が集まったわけですね。障害者に関わらず。それこそペットを連れ込んだ人など、色んな人と出会うができた。そこでふれあいが生まれた。 学園大の方針としては「できるだけ、規則を少なく非難する人を受け入れよう」ということだったらしい。 災害時や緊急事態の際、どういう事情の人でも受け入れるような避難場所が求められるのではないかと思う。 <事務局>下部組織である大人分科会でも就労に関する調査は行った。A型・B型・就労移行・中ポツに限った令和元年の調査では一般就労したいという意見が全体の6割を超えており、希望に対してのエンパワメントが必要だという分析結果が出ていた。 今回のアンケートはその他の日中サービス（生活介護など）も利用している方なども含んでいるので、相対的に「就労」への希望が少なく見えているのではないかと思う。 就労系サービスなどをご利用の方は依然として意欲が高いのではないか、という考察をした。 一般就労への送り出しにあたってのエンパワメントは必要だと思われる。 <事務局>障害、基幹センターでも地域すべてを把握しているわけではないが、ご相談受ける中では、避難をしたいと希望している方は多い。 お声かけして頂ければつながせて頂く。 ＜事務局＞個別で相談を受ける分、地域単位での災害対策に関するニーズは見えていない部分がある。 そういったところを地域と連携していければと感じます。 <委員>災害時、以外と抜け落ちているのは高齢者施設であったり、障害者施設であったり。そういう所に障害のある人がたくさんの人がいるが、避難が間に合わないという事があるわけですね。自分で逃げられる人がほとんどいないと。そういう中で水害とか発生した場合、施設で亡くなった人もいると思う。 案外、障害をもつ人が一カ所に集まると大変なんだろうと。人手が足りない事もあるだろう。 地域地域で生きている人よりも実はリスクが高いのではないか。そういったところでの避難の確認も必要かと。 <委員>要援護者名簿の登録をしても誰かが助けに来れるわけではない、ということで、なかなか登録が進まないとの事だった。一方で個別の「災害時マイプラン」を作る動きもある。 何かあった時、どこに行くのか・誰が助けるのか、支援してくれるのはだれかを事前に明らかにする。これは地域福祉課が薦めていて、社協も地域担当のコーディネー

	ターが地域の皆さんと一緒になって作るようなことをしている。 　例えば民生委員さん側で登録されている高齢者の中からピックアップして、マイプランにつなげていこうという流れが校区によってはあったりする。 　しかし、障害者という観点では依然として見えていない部分もある。 　そういったところを周知して行くというのも、地域防災を一歩進める形になるのではないかと思う。 〇その他 〇事務局から 皆様の意見を基に議事録を整理し、考察に反映させて頂きたいと思います。 介助者・相談先として家族がご活躍頂く事が地域共生社会に繋がるのかなと思いますが、一方でそこだけになってしまうとご家族の疲弊してしまう事もあります。エンパワメントできる取組が必要なのだろうと。これは別件の差別禁止条例の検討過程でも、どこに相談しても最終的につながっていくようなものが必要だという意見がありました。 どの分野でも「相談」という事にフォーカスが当たっていると感じます。 「相談」にも深く幅広い意味があると認識していますので、そういったことをフォローできるような結果になればよいと思います。 今回頂いた意見をまとめて最初の考察とさせていただきます。 最終的な確認は会長にお渡ししたいと思います。
１９：４５	**閉会**

以上